

以上製絲科

●宮城嘉貞君は昨年八月死去せられたり

●荻野 殷君は本年四月死去せられたり

●新宮源八君は本年八月病死せられたり

本部 狀況

「先帝の御製畏き暑哉」巡り來る時の一閃。眞夏の頃となり申候。諸彦益々御健勝の御事と賀上候。例により母校を巡る時と人。變遷の一部御報申可候。

教職員の移動としては昨年十一月田袋助手は兵庫縣測候所に轉任、本年に入りて初春早々山田、遠藤兩助教の辭職あり勝木教授は蠶業試驗場に専ら研究せらるゝ身となられ藤崎教授は群馬縣技師として榮轉せられ候。而して田中博士が臨時講師として遺傳學を講義せらるゝ事となり佐藤學士(本年度農科大學卒業)が養蠶部講師とせられ候。助手としては三橋君は十一月横須賀軍隊の人となられ本年四月須田、佐藤二君は蠶業試驗場に中澤君は福島縣の蠶種會社に轉せられ近藤講師亦家事都合の爲四月辭職せられ八月病理部助手谷田君が家郷に歸られ候。遠藤君の後任として兒玉忠雄君が來校せられ上野榮仁君亦母校助手として製絲部に入られ候。其他別に異動なく教職員皆各自研究に努力せられ居候。新設されし生物學教室が人待ち顔に深緑の

梢の中に見ゆるは時と人の變遷をば物云はずして語るの聲とも覺え申候。永遠の技術に携る我友は「人を相手とせず天を相手とせよ」との暗示かとも覺え申候。

本年度新入學生は養蠶科廿六名、製絲科廿九名、他に選科生として養蠶科三名、製絲科二名に有之候。

養 蠶 科

日野 光平 (群馬縣) 岩 瀬 義 夫 (愛知縣) 吉 川 孟 文 (長野縣)

三 輪 杉 門 (山口縣) 桑 田 庄 七 (廣嶋縣) 齋 藤 鳳 一 (茨城縣)

柴 田 汎 一 (栃木縣) 小 川 靜 (愛知縣) 細 川 潔 (長野縣)

久 保 善 之 助 (香川縣) 小 林 繁 (福井縣) 三 好 圭 一 (佐賀縣)

宮 崎 清 治 (愛媛縣) 倉 持 高 之 助 (茨城縣) 萩 野 轍 間 (京都府)

萩 野 上 風 (新潟縣) 中 島 文 雄 (熊本縣) 永 田 平 (長野縣)

中 川 三 郎 (三重縣) 中 島 茂 司 (群馬縣) 仲 内 靜 (茨城縣)

原 田 種 龜 (東京府) 細 川 謹 (青森縣) 二 木 猪 一 (長野縣)

根 岸 丑 之 助 (群馬縣) 安 倍 恒 雄 (福島縣)

以 上 本 科

石 原 石 司 (群馬縣) 都 丸 晴 治 (群馬縣) 武 田 豊 太 郎 (山形縣)

以上選科

製絲科

好士泰造 (千葉縣)

堀田啓咨 (鳥取縣)

大塚重藏 (滋賀縣)

與村好一 (福嶋縣)

鈴木教吾 (福島縣)

榑原春彦 (愛知縣)

兒玉慶次 (愛知縣)

鈴木武造 (新潟縣)

加藤善一 (愛知縣)

稻井彌市 (愛媛縣)

富田乙松 (山口縣)

岩崎登 (長野縣)

及部蝶作 (愛知縣)

北本重郎 (鳥取縣)

津留稔 (熊本縣)

櫻井正敏 (茨城縣)

園田駒吉 (大分縣)

岡田吉次 (長野縣)

佐藤與四次 (福島縣)

清水輝雄 (長野縣)

西考重 (福島縣)

富田庄三郎 (三重縣)

渡邊隆平 (靜岡縣)

黒田誠一郎 (石川縣)

塩見義雄 (京都府)

本間久 (茨城縣)

丹生谷清六 (愛媛縣)

坂本孝子 (埼玉縣)

淺井春夫 (靜岡縣)

以上本科

小宮山太助 (長野縣)

關口三郎 (群馬縣)

以上選科